

東北復興 PSW にゆうす

このたびの各地台風の影響により被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。今号は、第55回（公社）日本精神保健福祉士協会全国大会・第18回日本精神保健福祉士学会学術集会での被災地障害者作業所等製品販売事業のご報告をさせていただきます。そして今もこれからも続く、復興へのPSWの取り組みを、ご紹介させていただきます。

第55回全国大会・第18回学術集会（愛知大会）“ぶっぱん”のご報告

去る8月30日、31日、名古屋国際会議場にて行われた全国大会での物販の様子をご報告します。2日間大変な賑わいで関心を寄せていただき、8事業所から寄せられた魅力の商品、今年も完売となりました！



2019 愛知大会バージョン
ご好評の物販Tシャツです
復興した宮城の業者にお祈りました。



岩手からは
朋友館、星雲工房



宮城からは
きらら女川、工房地球村



福島からは
コーヒータム、あさがお
あすなるホーム、ほっと悠



事業所からのリーフレットも添えて



岩手のみそばんを手にニッコリ柏木会長



「岩手・宮城・福島からのメッセージ」を上映

～販売協力員に参加して～

今回初めて販売に携わせていただきました。東北は私の出身校があり、震災の際には何もできず歯がゆい思いをしましたので、今回微力ながら参加させていただきました。震災から8年経ち、今年の夏の旅行で東北を訪れ、復興されている部分と、まだこれからの部分も感じました。被災された事業所の皆さまの思いに対し、販売という形で関わったこと、とても嬉しく思います。東北の復興を、これからも愛知から見守っております。

(愛知県支部 小木曾 真知子)



今年も、売り上げの一部を「2018年北海道胆振東部地震被災地支援に係る募金」へ充てさせていただくことができました。出品いただいた岩手・宮城・福島の事業所の皆さま、製品をご購入いただいた皆さま、販売協力員の皆さま、愛知大会運営委員・協会事務局の皆さま、本物販に心を寄せていただきましたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

委員会「検証作業」中間発表

全国大会・学術集會では、委員会活動の検証作業について、分科会とポスター展示およびポスターセッションにて、これまでの成果や整理してきた課題について中間報告を行いました。

活動を振り返りつつ、様々な災害の発生している中で今後の委員会の在り方や、協会として「復興支援」「支援者支援」の観点からどのように取り組みを展開できるのか、そして継続できるのか…構成員の皆さまとも交流し意見交換させていただく機会となりました。今後も検証作業は続きます。委員会の様子は引き続きご報告させていただきます。



これからも！

神奈川県支部の構成員より寄稿いただきました。
全国で、復興支援の取り組みは続いていきます。

「復興キラキラプロジェクト 絆キャンプ」

神奈川県支部 鈴木 隆太

東日本大震災の惨状を目の当たりにした NPO 法人 VIDA 代表の嶋村さんは、福島の子どもの未来と復興へ向け、2012 年春に新たな活動を始めたところでした。嶋村さんから「福島の子どもたちと神奈川の子どもたちを結ぶキャンプに参加しないかと？」と声を掛けていただいたのが、2012 年の夏でした。そして、私自身も「震災復興×自分」がテーマで実際にどのように行動化できるのか、震災後 1 年以上も悩んでいた頃でもありました。

絆キャンプは年に 2 回、春と夏に福島の子たちと神奈川の子たちの交換キャンプです。お互いの土地に行き来し、初めて出会う友達と 2 泊 3 日、山や海など自然あふれるところで、心の底から笑って、泣いて、怒って、仲直りをしながら、キャンプをするという活動です。子どもたちが作る世界観にスタッフボランティアが安全管理という名のスパイスを利かせているような、そんな絆キャンプの魅力は「命の尊さ」を学ぶということ。

代表の嶋村さんが、子ども達に伝えたい思いの中心は常にここにあり、津波や震災で命を落とした方々の分まで生きよう、決して自分から命を粗末にはしてはいけないと毎年、子どもたちに語り掛けています。他にもプログラムの目的として、危機管理能力を養うこと、自然を観察すること、自然の刃に恐れを感じる心を育てることなどにも焦点を当てています。まだまだ幼く小さな背中の子どもたちではありますが、この絆キャンプでの経験が、いつか自分と自分の大切な人を守る強さに変容してほしいとの思いがあります。

そして今年も、福島県いわき市にある田人小学校大平分校にて、2 泊 3 日の神奈川キッズと福島キッズの絆キャンプが行われました。8 年目を迎え、絆キャンプの主役たちは、震災を知らない子どもたちです。絆キャンプが始まった当初、広野の仮設住宅で生活をしてきた子が高校生となり、この絆キャンプを手伝いに来てくれました。そしてふと 8 年前の彼らのことを思い出しました。当時、彼らが強いられた仮設住宅での生活、住み慣れた家を離れなければならない状況下で参加してくれた絆キャンプ。福島の子どもたちは、誰一人として、置かれている状況を嘆く子がいなかったのです。

こうして、当時の彼らと再会し、身長も追い抜かれちょっと寂しい気持ちなりながらも、たくましい背中を見ると、間違いなく震災という辛く受け入れがたい環境のなかで、強くたくましく成長していることを感じずにはいられませんでした。そしてこの絆キャンプはこれからも続きます。

2020 年 3 月開催！！ 「復興支“縁”ツアー in みやぎ」

「ようやく来ることが出来た」 「行くたびに新たな事実を知ることができる」

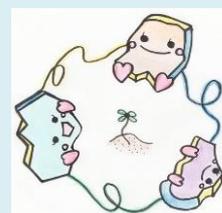
「毎回、備災についての『東北メソッド』を教えてもらえる」

「これから、一緒に考え続ける必要性を感じる」「現地の構成員や委員との交流！」

これらは、これまでのツアー参加者からの感想の声です。

ぜひ、あなたもご一緒しませんか？今年宮城でのツアー開催となります。

次号(44号)にて、ツアーの詳細と募集要項の発表となりますので、ご期待ください☆



【ご意見・ご感想をお寄せください】

本委員会では、構成員はもとより、3 県の事業所や地域のみなさんとの交流を大事にしております。ぜひ、それぞれのお立場からの声をお聞かせください。お寄せいただいたメッセージは、本紙面や本協会ウェブサイト、事業所等にご紹介させていただきます。

FAX もしくは E-mail : office@japsw.or.jp で皆さまのお声をお聞かせください。

★題名に「PSW にゆうすについて」とご記入ください★

編集後記

各地での台風の被害に、心を痛めております。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

ご無事と、一日も早く穏やかな暮らしを取り戻せますよう祈っております。ツアーでの再会・出合いを楽しみにしております。(三瓶)

第 43 号 2019 年 11 月 15 日発行

編集：東日本大震災復興支援委員会

発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町 23-3 四谷オーキッドビル 7F TEL. 03-5366-3152 FAX. 03-5366-2993

★URL <http://www.japsw.or.jp/> ★東日本大震災復興支援サイト <http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>